

フランケン地方における観光事情

Tourismus und Touristik in Franken

山田 徹雄

Tetsuo YAMADA

要 旨

ドイツ再統一以降、フランケン地方における旅行者の宿泊件数が著しい増加を示してきた。特に、ミッテルフランケンにおいて宿泊件数は統一以前の2倍を示している。ミッテルフランケンの中心都市、ニュルンベルクの動向をみると、旅行者はより高級な宿泊施設を選好するようになり、ペンション、ガストホフ宿泊件数が著しく減少したのに対し、ホテル宿泊件数は4倍近くまで大幅に増加した。

はじめに

フランケン地方の観光資源を代表するのは、3つの UNESCO 世界遺産 (UNESCO-Weltbestätten) である。即ち、バンベルク旧市街 (die Bamberger Altstadt)、ヴェルツブルク司教館 (die Fürstbischöfliche Residenz in Würzburg)、ローマ帝国国境壁ラエティア・リメス (der Raetische Limes) である。これらの世界遺産に加えて9ヶ所の自然公園 (Naturpark) は、14,000 k m²におよぶ面積を有する。また、フランケン・ワインとフランケン・ビールは、この地方を代表する産物である。ⁱ

1. 観光におけるバイエルンとフランケン

ドイツにおける外国人旅行者の宿泊件数を州別に観察すると、バイエルンが最大であった。ⁱⁱ

国内からの旅行者をも含めた州別宿泊者数を見ると〔表1〕のようになる。

この表では、バイエルンに関して特に外国からの宿泊者が多いとはいえず、ドイツ全体の平均値 (15.29%) をやや上回る程度である。むしろハンブルク、ブレーメン、ベルリンなどの大都市において、外国からの宿泊者比率が高い。これは、ビジネスマンによる宿泊および宿泊施設の充実が影響していると考えられる。ただし、ラインラント・プファルツにおいて外国からの宿泊者

が多いのは、国境を接するベルギー、ルクセンブルクからの旅行者が多数であること、ⁱⁱⁱ ハーン空港を利用した格安航空券利用者が多いこと、^{iv} に加えて、ライン観光客によるマインツ、コブレンツ地域宿泊のためであろう。

〔表1〕州別に見た宿泊件数（2008年）

州	総宿泊件数	外国からの宿泊割合 (%)	国内からの宿泊割合 (%)
Schleswig-Holstein	23,855,050	5.63	94.35
Hamburg	7,727,621	20.86	79.13
Niedersachsen	36,901,588	7.73	92.26
Bremen	1,650,883	22.84	77.15
Nordrhein-Westfalen	41,521,488	19.39	80.60
Hessen	27,325,733	19.42	80.57
Rheinland-Pfalz	20,233,346	25.30	74.68
Baden-Württemberg	43,616,862	17.63	82.36
Bayern	76,616,862	16.68	83.31
Saarland	2,264,108	11.65	88.34
Berlin	17,770,277	39.64	60.35
Brandenburg	10,171,976	7.28	92.71
Mecklenburg-Vorpommern	27,501,888	3.04	96.95
Sachsen	16,181,700	9.05	90.94
Sachsen-Anhalt	6,699,594	6.92	93.07
Thüringen	9,247,450	5.66	94.33
合計	369,579,835	15.29	84.70

（典拠）Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.17

（注）ベット数9以上の宿泊施設を対象とする。キャンピング場利用者を含む。

次に、バイエルンにおけるフランケンの位置を確定する。2008年度の宿泊件数において、フランケンバイエルンのおよそ23%に相当した。フランケン内部においては大都市、ニュルンベルクを中心とするミッテルフランケンが最大の宿泊件数を示している。（〔表2〕参照）

〔表2〕宿泊件数に見るバイエルンとフランケン（2008年度）

地域	宿泊件数
バイエルン	76,910,271
フランケン	17,989,299
オーバーフランケン	4,363,500
ミッテルフランケン	7,450,286
ウンターフランケン	6,175,513

（典拠）Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.15

（注）ベット数9以上の宿泊施設を対象とする。キャンピング場利用者を含む。ミッテルフランケンには、アイヒシュテットが含まれる。

1982 年以降 2007 年に至る、バイエルン、フランケンにおける宿泊状況の変化を〔表 3〕に示した。ここから明らかになったのは

- (1) バイエルンにおける宿泊件数は、ドイツ再統一を機に大幅に増加したこと、
 - (2) バイエルン全体の伸びよりも、フランケン地方のそれが上回っていたこと、
 - (3) フランケンの成長は、ミッテルフランケンにおける宿泊件数の増加によるものであり、オーバーフランケン、ウンターフランケンはバイエルン全体の成長率を大幅に下回っていること
- である。

〔表 3〕 バイエルンおよびフランケンにおける宿泊件数の変化
(いずれも 1982 年を 100 とする。)

年	バイエルン	フランケン	オーバーフランケン	ミッテルフランケン	ウンターフランケン
1982	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1985	108.3	104.8	100.1	113.4	102.9
1990	131.2	129.3	125.6	146.9	120.6
1995	129.6	126.4	118.3	146.9	119.1
2000	131.7	133.4	120.5	185.2	109.6
2005	125.3	128.9	109.5	187.6	105.3
2006	125.7	132.1	109.1	196.9	107.2
2007	128.4	134.1	110.0	200.6	108.9

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2007, p.12

(注) ベット数 9 以上の宿泊施設を対象とする。キャンピング場利用者を含まない。ミッテルフランケンには、アイヒシュテットが含まれる。

2. フランケンにおける外国からの旅行者

ここでは、外国からのフランケンへの旅行者について触れる。ここ 2～3 年の変化において、特に顕著であるのは、日本からの宿泊者順位が、2007 年には 6 位であったが、2008 年に 9 位へと下落したのみならず、その減少率が大きかったことである。日本からの宿泊者は 2007 年には、前年比 16.1% の減少、2008 年には同 17.5% の減少となっている。一方、ロシアからの宿泊者は 2007 年に前年比 5.3% の増加、2008 年には同 21.7% の増加と対照的な動きを示した。^v

2008 年度における外国からの旅行者による宿泊件数は、〔表 4〕のようになっている。オランダからの宿泊者が最も多く、次いでアメリカ、イタリア、オーストリア、イギリスと続く。

〔表4〕フランケン観光地における外国からの旅行者の宿泊件数（2008年）

出発国	件数
オランダ	402,246
アメリカ合衆国	256,412
イタリア	162,580
オーストリア	153,445
イギリス（北アイルランドを含む）	120,028
スイス	117,458
フランス	101,924
デンマーク	94,874
日本	94,645
ベルギー	76,421
ポーランド	72,155
スペイン	61,457
スウェーデン	57,424
中国	54,677
チェコ	52,673
ロシア	49,458
その他	635,885
合計	2,563,762

（典拠）Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.12

（注）ベット数9以上の宿泊施設を対象とする。キャンピング場利用者を含む。キャンプ場利用者のうち、Liebliches Taubertal 地域は含まない。

3. フランケン地方における観光の経済効果

「フランケン観光連合」（Tourismusverband Franken e.V.）は、2005年度における経済効果を以下のように記している。^{vi}

- （1）宿泊者による1日あたりの支出は、102ユーロであり、日帰り旅行者（Tagesbesucher）による同支出は、27.2ユーロであった。
- （2）旅行者全体による支出は、年間およそ61億6千9百万ユーロ（付加価値税を控除した金額）であった。これは、同年におけるフランケン地方の空間GDPの近似値、1千34億2千8百万ユーロの6%弱に相当する。^{vii}
- （3）この地元経済に落とされた資金は、17万5百人分の雇用に相当する。
- （4）付加価値税収入のうち、市町村への配分額は1億5千4百万ユーロに相当した。

これらの指摘は、フランケン地方の観光企業、雇用、地方公共団体の財政にとって、観光のもつ経済効果が無視できない大きさであることを物語っている。

4. 「フランケン観光連合」(Tourismusverband Franken e.V.)

4.1 フランケン観光連合の組織

フランケン地方の観光を振興するフランケン観光連合の定期総会は、1年に1回開催される。2007年は、6月22日にフルトで開催され、^{viii} そこにおいて選出された理事(Engerer Vorstand)は、〔表5〕の通りである。

理事の構成は、州政府を代表するものが第一議長に就き、ヴェルツブルク、ニュルンベルク、バンベルクなどの特別市(kreisfreie Stadt)から市長クラスが参加するほか、郡長が参加している。

〔表5〕フランケン観光連合の理事

役職	氏名	選出基盤の役職
1.Vorsitzender	Dr.Werner Schnappauf	Bayerischer Staatsminister a.D.
Stellv. Vorsitzende	Dr. Pia Beckmann	Oberbürgermeisterin (Würzburg)
Stellv. Vorsitzender	Dr. Ulrich Maly	Oberbürgermeister (Nürnberg)
Stellv.Vorsitzender	Franz Xaver Uhl	1.Bürgermeister (Beilngries)
Stellv. Vorsitzender	Karl Zeitler	Landrat (Coburg)
Schatzmeister	Herbert Lauer	Oberbürgermeister a.D. (Bamberg)
Schriftführerin	Tamara Bishop	Landrätin (Kitzingen)
Verbandsausschussvorsitzender	Dr. Jürgen Walchshöfer	1.Bürgermeister a.D. (Dinkelsbühl)

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2007, p.60

2008年6月28日には、シュヴァインフルトにおいて同連合の年次総会が開催された。^{ix} その際、第一議長の退任が報告され、シュナップアウフ博士に代わって、ヨアヒム・ヘルマン(Joachim Hermann, MdL Bayerischer Staatsminister)が選出された。^x

理事会を補佐するBeiratは、拡大理事会(Mitglied des erweiterten Vorstands)とも記されていることから評議員の訳語をあてた。^{xi}

評議員の構成は、ミッテルフランケン、オーバーフランケン、ウンターフランケンという広領域の代表者に加え、市長、郡長などからなる。

フランケン内の各地域観光委員会の議長によって構成されているのが、フランケン観光連合における連合委員会(Verbandsausschuss)である。^{xii}

その構成は、郡長が中心であって、議長はデンケルスビュール元第一市長が努める。

〔表6〕フランケン観光連合の評議員 (Beirat)

氏名	選出基盤の役職
Richard Barth	Bezirkspräsident (Mittelfranken)
Dr. Günther Denzler	Bezirkspräsident (Oberfranken)
Dr. Klaus-Günter Dietel	Landrat (Bayreuth)
Dr. Gernhard Engelmann	Rechtsanwalt, BHG (Mittelfranken)
Ralf Felber	Oberbürgermeister (Ansbach)
Reinhard Frank	Landrat (Tauberbischofsheim)
Siegfried Gallus	Präsident, Bayerischer Hotel- und Gaststättenverband (Beilngries)
Armin Greis	Landrat (Karlstadt)
Gudrun Grieser	Oberbürgermeister (Schweinfurt)
Thomas Habermann	Landrat (Bad Neustadt a.d. Saale)
Walter Hartl	Oberbürgermeister (Rotheburg o.d. Tauber)
Bernd Hering	Landrat (Hof)
Peter Heusinger	Bezirksvizepräsident (Unterfranken)
Erhard Hildner	Stellv. Landrat (Kulmbach)
Heiko Könicke	Geschäftsführender Gesellschafter, AFAG Messen und Ausstellungen GmbH
Andrea Luger	Bezirksvorsitzender, BHG (Oberfranken)
Andreas Oestemer	Präsident, Gebietsweinwerbung Frankenwein- Frankenland GmbH
Helmut Reich	Altlandrat (Lauf a.d.P)
Dr. Ulrich Reuter	Landrat (Aschaffenburg)
Karl-Dieter Scheckenbach	DB Vertriebes GmbH, Verkaufsbezirk Würzburg
Gregor Schmitt	Stell. Landrat a.D. (Forchheim)
Anton Seitz	Stellv. Landrat a.D. (Ansbach)
Heinz Stempfle	Stellv. Bezirksvorsitzender, BHG (Unterfranken)
Gerold Strobel	1.Bürgermeister (BadRodach)
Waldemar Zorn+	Altlandrat (Würzburg)

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.62

〔表7〕フランケン観光連合「連合委員会」の評議員 (Beirat)

選出母体	氏名	選出基盤の役職
Vorsitzender	Dr. Jürgen Walchshöfer	1.Bürgermeister a.D. (Dinkelsbühl)
Naturpark Altmühltal	Franz Xaver Uhl	Landrat (Weißenburg i.Bay.)
Fichtelgebirge	Hermann Hübner	Landrat (Bayreuth)
Fränkische Schweiz	Rheinhardt Glauber	Landrat (Forchheim)
Fränkisches Seeland	Franz Xaver Uhl	Landrat (Weißenburg i.Bay.)
Fränkisches Weinland	Eberhard Nuß	Landrat (Würzburg)
Frankenalb	Armin Kroder	Landrat (Lauf)
Frankenwald	Oswald Marr	Landrat (Kronach)

Haßberge	Rudolf Handwerker	Landrat (Haßfurt)
Liebliches Taubertal	Reinhard Frank	Landrat (Tauberbischopsheim)
Oberes Maintal-Coburger Land	Rheinhard Leutner	Landrat (Lichtenfels)
Rhön	Thomas Bold	Landrat (Bad Kissingen)
Romantisches Franken – vom Naturpark Frankenhöhe zur Romantischen Straße	Dr. Jürgen Walchshöfer	1. Bürgermeister a.D. (Dinkelsbühl)
Spessart-Mainland	Dr. Ulrich Reuter	Landrat (Aschaffenburg)
Städteregion Nürnberg		
Steigerwald	Walter Schneider	Landrat (Neustadt a.d. Aisch)

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.63

4.2 フランケン観光連合の負担金規程

フランケン観光連合は、会員の負担金を会員総会において締結された負担金規程に基づいて、事業年度開始2ヶ月前にそのつど計算され、事業年度の第一四半期に支払いが完了することを、『定款』 §4 に定めている。^{xiii}

この規程に依拠して、2009年に定められた『分担金規程』は、〔資料1〕のように記されている。^{xiv} これによると、負担金は旅行者数、人口規模、宿泊件数を基準に算出され、主にはゲマインデ、郡からの拠出によっていることがわかる。

〔資料1〕フランケン観光連合分担金規程（2009年6月26日）

1. ゲマインデ (Gemeinden)

a) 基礎負担額

通過旅行者	10,000 人未満	102.2584 ユーロ
	10,000 人～ 49,999 人	140.6053 ユーロ
	50,000 人～ 99,999 人	204.5168 ユーロ
	100,000 人～ 199,999 人	319.5574 ユーロ
	200,000 人～ 299,999 人	472.9450 ユーロ
	300,000 人～ 499,999 人	613.5503 ユーロ
	500,000 人～ 999,999 人	1,124.8421 ユーロ
	1,000,000 人以上	1,636.1340 ユーロ

b) 人口1人あたり

0.0102 ユーロ

c) 宿泊1件あたり

湯治場の場合	0.0051 ユーロ
その他のゲマインデの場合	0.0092 ユーロ

- d) 官庁統計に含まれていない宿泊については、ゲマインデからの申告によって、最低負担金を以下とする。

ベット数 9 以上の宿泊施設	0.9203 ユーロ
ベット数 8 以下の宿泊施設	0.5113 ユーロ

2. 郡 (Landkreis)

2010 年度 人口 10,000 人当たり	276.0977 ユーロ
2011 年度 人口 10,000 人当たり	368.1302 ユーロ

3. 連合 (Verbände)、会議所 (Kammern) および個人会員 (Einzelmitglieder)

自己評価、最低負担金	63.9115 ユーロ
------------	-------------

4. 区域会議 (Bezirkstage)

自己評価、最低負担金	255.6459 ユーロ
------------	--------------

5. 故郷協会、旅行協会 (Heimat- und Wanderverein)

自己評価、最低負担金	63.9115 ユーロ
------------	-------------

6. 湯治・観光事業協会 (Kur- und Fremdenverkehrsverein)

自己評価、最低負担金	63.9115 ユーロ
------------	-------------

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Kurzfassung der Beitragsordnung vom 26. Juni 2009

4.3 フランケン観光地域における宿泊

地域の観光委員会の管轄する地域ごとに、宿泊者数を見たのが〔表8〕である。宿泊件数が最大であるのは、ニュルンベルク都市圏であり、それに次ぐのは、レーン、フレンキッシェス・ヴァインラント、アルトミュール溪谷自然公園、フィヒテルゲビルゲである。ニュルンベルク都市圏を除けば、自然の景観を楽しむ地域が旅行者に好まれている。

5. ニュルンベルクにおける旅行者

5.1 ニュルンベルク観光の定量分析

近年におけるミッテルフランケンが宿泊者件数において、著しい伸びを示していることをすでに指摘した。これらの地域に存在する特別市 (kreisfreie Stadt) を代表するニュルンベルク、フュルト、エアランゲンの観光状況を〔表9〕によって概観する。これによると宿泊設備の整った大都市、ニュルンベルクに宿泊が集中していることが分かる。

ニュルンベルクにおける宿泊件数を施設別に観察すると、ホテル利用者が圧倒的に多いが、よ

〔表 8〕 フランケン観光地域における宿泊件数（2008 年）

観光地域	総件数	外国からの宿泊	国内からの宿泊
Naturpark Altmühltal	1,324,656	186,696	1,137,960
Fichtelgebirge	1,178,740	88,859	1,089,881
Fränkische Schweiz	858,343	54,474	803,869
Fränkisches Seeland	907,481	51,741	855,740
Fränkisches Weinland	1,869,391	313,382	1,556,009
Frankenalb	503,584	56,011	447,573
Frankenwald	852,309	46,915	805,394
Haßberge	270,042	14,290	255,752
Liebliches Taubertal	920,589	75,558	845,031
Oberes Maintal-Cob. Land	956,508	43,369	913,139
Rhön	2,763,341	83,772	2,679,569
Romantisches Franken	1,152,118	327,981	824,137
Spessart-Main-Odenwald	1,132,544	133,094	999,450
Städteregion Nürnberg	3,011,688	927,038	2,084,650
Steigerwald	1,599,149	236,140	1,363,009
合計	19,300,483	2,639,320	16,661,163

(典拠) Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.9

〔表 9〕 ニュルンベルク、フルト、エアランゲンにおける宿泊状況

都市	年度	ベッド数	宿泊件数 内、外国人
ニュルンベルク	2005	13,272	1,956,393 601,860
	2006	13,457	2,129,393 702,333
	2007	13,918	2,188,905 698,827
フルト	2005	1,758	244,688 65,734
	2006	1,807	231,765 63,928
	2007	1,803	243,472 58,364
エアランゲン	2005	3,132	431,353 144,481
	2006	3,222	467,066 163,922
	2007	3,279	474,736 170,855

(典拠) Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p.172 より作成

り安価な施設においては宿泊日数が多くなっている。〔表10－1〕参照)

しかしながら、1980年においては、ホテル・ガルニ利用者がホテル利用者を上回っていた。また、当時は、ガストホフ、ペンション宿泊件数がホテルの1／3程度あったことも現在とは、著しく異なる特徴である。

〔表10－1〕 ニュルンベルク市における宿泊分類 (1) (2007年)

宿泊施設	年間宿泊件数	外国人比率 (%)	平均宿泊日数
ホテル	1,361,952	34.2	1.7
ホテル・ガルニ	588,859	29.1	1.9
ガストホフ	60,337	22.2	2.1
ペンション	41,840	26.1	2.4

(典拠) Statisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p173-174より作成

〔表10－2〕 ニュルンベルク市における宿泊分類 (2) (1980年)

宿泊施設	年間宿泊件数	平均宿泊日数
ホテル	347,675	1.6
ホテル・ガルニ	368,065	2.0
ガストホフ	102,466	2.5
ペンション	138,859	2.5

(典拠) Statisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p173-174より作成

各施設別に1980年から2007年の推移を観察した〔表11〕から、この間、ガストホフ、ペンション利用者が減少してきたこと、ホテル利用件数が激増したことが読み取れる。こういった動きは、ドイツ統一前後から加速化した。

〔表11〕 ニュルンベルク市における宿泊形態の推移
(1980年を100とする。)

年	ホテル	ホテル・ガルニ	ガストホフ	ペンション
1980	100.00	100.00	100.00	100.00
1895	125.36	118.47	83.33	83.84
1990	201.72	131.25	103.92	66.45
1995	223.05	161.41	68.62	39.07
2000	252.16	230.7	94.73	43.50
2001	248.99	216.3	94.85	42.39
2002	242.65	201.63	90.52	42.39
2003	256.48	197.82	76.05	29.28
2004	275.21	200.27	66.89	19.10
2005	309.79	191.03	56.35	16.91
2006	390.20	163.58	50.02	16.88
2007	392.21	159.78	58.88	30.13

(典拠) Statisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p.173-174

ニュルンベルク宿泊者の起点を〔表 12 - 1〕、〔表 12 - 2〕によって確認すると、圧倒的多数がドイツ国内からの旅行者であるが、その比率は低下したことが分かる。これに対して、ドイツ以外のヨーロッパを起点とする旅行者の比率は大幅に拡大した。また、アフリカ、アメリカ大陸、アジアからの旅行者比率はいずれも増加してきた。

平均宿泊日数においては、ドイツとドイツ以外のヨーロッパを起点とする者に差はないが、それ以外の地域からの旅行者の場合、より長期の滞在となっている。

〔表 12 - 1〕 ニュルンベルク宿泊者の出発地域（2007 年）

出発地域	宿泊件数	同比率	平均宿泊日数
ドイツ	1,490,078	68.1	1.8
ヨーロッパ	470,997	21.5	1.8
アフリカ	7,769	0.4	3.5
アジア	84,055	3.8	2.4
アメリカ大陸	97,160	4.4	2.1
オセアニア	8,026	0.4	2.1
合計	2,188,905	100.0	1.8

(典拠) Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p.176

〔表 12 - 2〕 ニュルンベルク宿泊者の出発地域（1997 年）

出発地域	宿泊件数	同比率	平均宿泊日数
ドイツ	1,159,562	74.9	1.8
ヨーロッパ	286,149	12.1	1.9
アフリカ	2,575	0.2	2.3
アジア	39,977	2.6	2.2
アメリカ大陸	49,125	3.2	3.2
オセアニア	3,422	0.2	1.8
合計	1,547,872	100.0	1.8

(典拠) Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 1999

〔表 13 - 1〕〔表 13 - 2〕によってニュルンベルク宿泊者の出発国を見ると、アメリカ合衆国からの旅行者が近年、ますます増大していることがわかる。また、スペイン、中国からの宿泊者が急激な増大を示し、これらの国における所得水準の向上が想起される。アメリカ発の旅行者の平均宿泊日数は、この間減少を示した。

〔表13－1〕 出発国別ニュルンベルク宿泊者の内訳（2007年）

		宿泊件数	平均宿泊日数
1	アメリカ合衆国	73,176	2.1
2	イタリア	65,257	1.8
3	イギリス、北アイルランド	54,072	2.0
4	オーストリア	45,016	2.1
5	スイス	38,696	1.8
6	オランダ	38,215	1.7
7	フランス	36,047	1.6
8	スペイン	28,693	1.3
9	日本	25,095	1.1
10	中国	20,573	0.9

（典拠）Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 2008, p.176

〔表13－2〕 出発国別ニュルンベルク宿泊者の内訳（1997年）

		宿泊件数	平均宿泊日数
1	イタリア	45,166	1.9
2	アメリカ合衆国	40,227	2.6
3	オーストリア	29,327	1.9
4	イギリス、北アイルランド	28,926	1.9
5	スイス	26,092	1.7
6	オランダ	24,558	1.7
7	フランス	23,698	1.7
8	日本	17,764	1.9
9	ギリシャ	12,209	4.9
10	スウェーデン	10,011	1.7

（典拠）Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg 1999

5.2 ニュルンベルクとメッセセンター

ニュルンベルク・メッセセンター（Messezentrum Nürnberg）における各種の催しは、多数の旅行者を集めている。2007年度には、110万人以上の訪問者が同会場を訪れた。

〔表14〕メッセセンターにおける催し物（2007年）

催し物の種類	件数	訪問者数
Messen, Fachausstellungen	27	508,986
Regionale Fachausstellungen	7	51,702
Kongress/Tagungen, z.T. mit Fachausstellungen	61	158,569
Verbraucherausstellungen	4	312,703
Sonstige Ausstellungen	48	86,985
合計	147	1,118,945

（典拠）Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg, 2008, p.179

大規模なメッセを抽出すると、〔表 15〕のようになる。このなかで、特に訪問者が多数を占めるのは、消費財全般を対象とするコンズメンタ（Consumenta）、余暇、園芸プラス観光（Freizeit, Garten + Touristik）メッセ、および玩具の見本市（Spielwarenmesse – International Toy Fair Nürnberg）である。

コンズメンタは、「専門展示会を含んだ消費者メッセ」（Verbrauchermesse mit Fachschau）の副題が示しているように代替エネルギー、建設資材、余暇用品、健康食品、手工業調度品、家屋リフォーム、家具調度、モード、地域特産品など多岐にわたる消費財のメッセである。^{xv} コンズメンタは 1952 年にライプツィガープラッツにおいて「ニュルンベルク秋の展示会——ショッピングバッグ——」（Nürnberger Herbstausstellung — die Einkaufstasche —）の名称で始まり、1969 年に現在の名称に変更された。この催し物は、ミュンヘンで開催されていた「消費者メッセ・コンズメンタ」（Verbrauchermesse Consumenta）から名前を借用した。^{xvi}

余暇、園芸プラス観光メッセは、1968 年以来毎年開催され、2009 年には、13 カ国から 542 社の展示があった。^{xvii} 2009 年度に人気を集めたのはテーマパーク「日本の魅力——日出る国では——」（Faszination Japan — im Land der aufgehenden Sonne —）であった。^{xviii}

玩具の見本市は、1949 年にニュルンベルク玩具見本市実行委員会（Messeausschuss zur Durchführung einer Spielwarenfachmesse in Nürnberg）が設立され、翌 50 年 3 月 12 日～18 日に第 1 回「ドイツ玩具見本市」（1. Deutsche Spielwarenfachmesse）がニュルンベルクで開催されたことに始まる。このときの展示は 351 社、バイヤーは 4,321 人であった。1958 年にこのメッセ

〔表 15〕ニュルンベルク・メッセセンターにおける主要メッセ訪問者

	1999 年	2007 年
BioFach – Weltleitmesse für Bio-Produkte	20,119	45,469
BRAU Bevale – Europäische Fachmesse für die Getränkewirtschaft	36,804	34,456
Consumenta	234,563	158,697
embedded world – Exhibition & Conference Nürnberg	–	13,675
EUROPEAN COATING SHOW – plus Adhesives, Sealants, Construction Chemicals	10,682	22,791
FachPack – Fachmesse für Verpackungslösungen (ab 2001 mit PrintPack und ab 2003 mit LogIntern)	–	33,975
Freizeit, Garten + Touristik	202,861	143,756
IWA & Outdoor Classics – Internationale Fachmesse für Jagd- und Sportwaffen, Outdoor und Zubehör	15,216	30,906
Spielwarenmesse – International Toy Fair Nürnberg	50,787	81,302
SPS/IPC/DRIVES – Internationale Fachmesse & Kongress Elektrische Automatisierung – Systeme und Komponenten	16,401	45,962
Stone+tec – Internationale Fachmesse für Naturstein und Natursteinbearbeitung	46,052	40,513

〔典拠〕Statistisches Jahrbuch der Stadt Nürnberg, 2008, p.180

は、「ニュルンベルク国際玩具見本市」(Internationale Spielwarenmesse Nürnberg)と名称を変更し、国際の見本市となった。コンズメンタ同様に1973年からは、新しいメッセセンターに開催地を移し、展示スペースは35,000 m²から50,000 m²へと大幅に拡張した。1997年には、行事名に英語を加えてSpielwarenmesse International Toy Fair Nürnbergとした。玩具の見本市は2009年に60周年をむかえることとなった。^{xix}

小括

フランケン地方の旅行者による宿泊件数は、ドイツ再統一以降、大きく増加したが、とくにミッテルフランケン宿泊者は、1980年代と比較して現在では倍加している。ミッテルフランケンの中心都市、ニュルンベルクにおける宿泊形態の変化をみると、ホテル宿泊者が4倍近くに増加しているのに対して、ガストホフ宿泊者は半減し、ペンション宿泊者は3分の1以下に低下した。

注

- i Tourismusverband Franken e.V., Wirtschaftsfaktor Tourismus in Franken, Studie zur Struktur und ökonomischen Bedeutung, p.14
- ii 拙稿「ドイツ観光事情——ドイツを旅する外国人はどこから来て、どこへ行ったか——」『跡見学園女子大学文学部紀要』第43号(2009年)
- iii 拙稿「ドイツ観光事情——ドイツを旅する外国人はどこから来て、どこへ行ったか——」『跡見学園女子大学文学部紀要』第43号(2009年)
- iv 拙著『ドイツ資本主義と空港』日本経済評論社、2009年
- v Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2007, p.12 et Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.13
- vi Tourismusverband Franken e.V., Wirtschaftsfaktor Tourismus in Franken, Studie zur Struktur und ökonomischen Bedeutung, 2006, p.14
- vii 拙稿「ニュルンベルク経済の基礎構造」『跡見学園女子大学文学部紀要』41号、2008年、35ページ
- viii Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2007, p.59
- ix Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.59
- x Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2008, p.62
- xi Tourismusverband Franken e.V., Geschäftsbericht 2007, p.60
- xii Tourismusverband Franken e.V., Satzung § 9
- xiii Tourismusverband Franken e.V., Satzung § 4
- xiv Tourismusverband Franken e.V., Kurzfassung der Beitragsordnung vom 26. Juni 2009
- xv Consumeta Nürnberg – Messe 31.10.2009-08.11.2009, in interrete sub: <http://www.messeinfo.de/Consumenta-M1540Nuernberg>, 29.09.2009
- xvi Consumenta, Messehistorie, in interrete sub: <http://www.consumenta.de/fuer-aussteller/messehistorie>, 07.10.2009
- xvii AFAG Messen & Ausstellungen GmbH, Freizeit Messe Nürnberg, interrete sub: <http://www.freizeit-und-garten.de/>, 10.10.2009

- xviii Messe Freizeit, Garten + Touristik Nürnberg, Schlussbericht 2009, in interrete sub: <http://www.freizeit-und-garten.de/>, 07.10.2009
- xix Spielwarenmesse Nürnberg – Historie -, in interrete sub: <http://www.spielwarenmesse.de/>, 29.09.2009